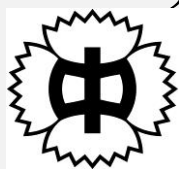


大宮小&済美小&大宮中 夢のタスキを9年間つなぎます！



なでしこ

東京都杉並区立大宮中学校 学校だより
令和5年6月30日 第3号(19-67)

発行責任者：校長 関田 誠

『大宮中精神：優しさをもって、夢や目標に向かって、挑戦する若者であれ！』

6/12(月) 校長朝礼講話

『3月のライオンのいじめ』の話

～『いじめの種』はどこにでもある～

6月はふれあい月間です。今朝は将棋界の藤井竜王の7冠制覇記念に『3月のライオン』の話をします。人気コミックでアニメ、映画化もされています。主人公の桐山漣(れい)は、中学生でプロ将棋棋士になった17歳。両親を交通事故で失い、寂しい子ども時代を送った過去があります。プロ棋士として高校に通いながら、下町で一人暮らしをする中で、偶然三姉妹とその祖父と親しくなります。家族の愛情に恵まれなかった漣は、その交流の中で心のうるおいと癒しの時を過ごします。

そんなある日、次女のひなたが中学校でいじめに巻き込まれます。その発端は、小学校時代から仲の良かった友達が、クラスで4人の女子にいじめの標的にされたことでした。ひなたは、それを見て見ぬふりができず、その友達を支えます。給食を一緒に食べたり、昼休みにおしゃべりをしたり。しかし、いじめはエスカレート。友達は家庭科の宿題や掃除当番を全部押しつけられ…。それを知って、ひなたは友達に黙っていてくれと頼まれるのですが、担任の先生に相談します。担任は何と「あなたの思い違いじゃない？」という冷たい言葉。私は(違うだろう！)と心の中でうめきました。その後友達はいじめに耐えられず、ひなたに「ありがとう」の言葉を残して転校します。その日の体育の時間に、ひなたは転校を余儀なくされた友達への4人の言動に我慢できずに、その子達に飛びかかってしまいます。次の日から今度はひなたがいじめの標的になります。上履きが隠され鞆にいたずらされ、そして…。原作者の羽海野チカさんは、将棋を通した若者の成長物語に止まらず、近しい人へのいじめに対して行動する姿を通して、人として成長する姿を描きたかったのでしょう。実は図書室司書の大峯さんに相談したら、「すぐに購入します！」という運びになりました。ぜひ、読んでみてください。



『3月はライオンのように荒れてやって来て、子羊のように穏やかな天候に変わる』(英国のことわざ)

『3月のライオン』のいじめの問題は、コミックで学年主任を通して『いじめにこれで大丈夫！という100%の特効薬はない』と語られます。みなさんは『いじめの種』は大宮中にも眠っていることを想像できますか。特効薬がないからこそ、もし『いじめの芽』が出たら、小さいうちに摘み取り続けるしかない。このコミックでは、クラスの担任の先生が頼りにならない情けない描かれ方をしています。クラスメイトもひなた以外、見て見ぬふりをする姿に描かれます。でもね、大宮中の先生方はそこが違います。先生方は、みなさんの健康な成長にいつでも真剣で、相談に乗って一緒に悩んでくれます。みなさんも悩んでいる仲間がいたら、手をさしのべるでしょう？今回の『ふれあい月間』のアンケートにも、小さなことほど見逃さず書いてください。もう一度言います。

「いじめに特効薬はない。だからいじめの芽は小さなうちに摘み取り続ける。絶対に成長させない」。その鍵は優しさをもった他者への想像力ではないかと、私は思います。😊

授業ぶらっと訪問②⑦

6月12日(月) 田中先生②英語 2A

少人数の教室の授業です。休み時間はとてもにぎやかにしゃべっています。チャイムと共に、「Stand up please!」という田中先生の掛け声で、挨拶をして立った状態で英語のやりとりをして、今日の授業の流れを説明して始まります。その後、田中先生が自分の好きな音楽の話英語で語りながら質問します。内容は1985年のビッグイベントの曲「We are the world」の話題から、Becauseの使い方、excited、excitingの違いを確認しています。その後ペアでお互いに一分間で自分の好きな音楽の説明を始めました。一人の所に田中先生、走り寄り相手をします。盛んに腕を振って話している生徒がいます。英会話に熱が入ると、身振り手振りが入ったり肩をすくめたりするのは英語ならではの様子です。



次にプリントを使ってリーダーの本文に入ります。ここまで、とてもテンポのよい授業の流れです。米国と日本での食文化の話です。スパゲティナポリタンは日本で生まれたイタリア料理で、寿司のカリフォルニアロールはアメリカで生まれた日本料理について英語で読みます。新出単語をフラッシュ表示して、声を出して読んでいきます。英語と日本語でフラッシュして覚えているか確認します。本文を黙読して内容を把握します。その後、田中先生が読んで生徒が続きます。が、いささか生徒の声が小さいのが気になります。本文の内容を確認して、文法事項や出てくる単語の意味を説明しながら進めていきました。プリントの残りを宿題として終わりました。

6月12日(月) 岸谷先生③保健体育 3B

チャイムの前に岸谷先生が現れ、元気に挨拶を投げかけます。「よろしくお願いします」という大きな声をかけて始まります。身長180センチ、堂々とした体格のニューカマーです。サッカー専門で、高校



の時はレギュラーキーパーとして全国大会にも出場経験のある筋肉隆々の先生です。岸谷先生は「今日はいきなり重たい話をします」と告げて、「不妊」「流産」という言葉を知っている人がいるか聞きます。多くの生徒が手を挙げます。「今日は性についての授業を始めます。恥ずかしいという気持ちは捨てて真剣に授業を受けてほしい」と伝えます。副教材の授業ノートを開くと、性感染症について、エイズについての内容があります。まずグラフ資料を見て気づいたことをまとめさせます。性感染症（性器クラミジア、性器ヘルペス、コンジローマ、梅毒）の増加がわかるグラフです。岸谷先生は、「性感染症から自分を守る、人に拡げないことが、不妊や流産の予防につながります」と断ってから、グラフについて分かったことを聞いていきます。男女によって、うつりやすい菌が異なることを押さえています。次に先生が教科書を読みながらポイントを押さえます。潜伏期間が数日と短いもの、3～6週間、数年に渡り潜伏するものもあることを伝えます。更に若い世代の梅毒の急激な増加に触れます。性交渉の若年齢化や複数の性的パートナーをもつことで爆発的に増加していることに触れています。続けてこれらの菌の感染経路について説明します。精液、膣分泌液、血液を介して感染すること、間違った知識として汗には病原体はなく、体が触れたり握手したことで感染することはないことを押さえていました。内容が重いため、岸谷先生も比較的淡々と授業を進めていきます。生徒も静かに聞いています。授業を受ける生徒が、真剣な表情が印象的でした。

授業ノートの問題を解きながら、岸谷先生から大事なことが次々に出てきます。性感染症にかかったら、自分だけでなくパートナーと一緒に治療しないと繰り返し再感染することも触れます。また、「性感染症には恥ずかしい病気という意識が生まれやすい

ため、検査や治療に病院に行くのが遅れがちになることが多いので、不安があったら検査をすることが重要ということも覚えておいてほしい」と話します。岸谷先生は「予防策について、隣の人と話し合って」と伝えます。さて？残念ながら誰も話し合いを始めません。再度、「予防策を二個挙げてみて」と伝えます。座席は市松模様で前後左右が男女隣合わせになっています。彼らは斜めに同性同士で話し合いを始める生徒が出始めました。この解答としてコンドームを着ける、複数のパートナーを作らない、早期発見早期治療ということ、岸谷先生が押さえていました。「性感染症の治療は検査や薬も含めて、健康保険を使って 2000 円から 4000 円で治療ができるから、母子感染等も防ぐために、医療機関にかかることが大切」と念押ししていました。

最後にエイズについて学習します。私も朝礼で三年間に一回は12月の世界エイズデーについての話をすることにしています。岸谷先生がエイズは数か月から10年近い潜伏期間があることが特徴で、20～30代の感染が多いことに触れます。予防方法はコンドームがあるけれど、100%感染を防げるわけではないということも伝えていました。岸谷先生の授業を聞いていて、諸外国の性の学習の授業では、生徒に具体的にセックスを行う場面を想定させて、男性はコンドームを必ず着けることがお互いを守ること、女性はコンドームを着けない男性からのセックスの求めは絶対に断ることも学んでいることを、新聞で読んだ記憶が蘇りました。岸谷先生の真剣な授業から、あらためて『性』の学習は『生』の学習ということ、私も学びました。

6月22日(木)② G組英語 増岡先生

G組の7人の少人数英語の授業です。残りの生徒は社会科の授業です。英語は増岡先生の専門です。

『Last Thursday』から曜日の話に入ります。木曜日がまだ定着していないため、日曜日から一週間を復習しました。今日は「English conversation」英会話をやるようです。まず移動教室の話題と英語の挨拶について学習します。先週の野辺山の移動教室について英語で会話をしようとしています。増岡先生「What did you eat?」と身振りを交えて質問します。生徒から「Houtou!」という答えが返ります。中に何が入っていたか聞いていきます。かぼちゃ、

ニンジン、しいたけ、さといも等の単語を英語で確認していきます。他にも何か食べたかな？「バーベキュー」「Oh ! BBQ」バーベキューは英語でBBQで通じるそうです。何が入っていた？もやし、ニンジン、かぼちゃ、ピーマン、牛肉、豚肉、玉ねぎ、キャベツなど次々に出てきます。英語の単語で確認していきます。次に増岡先生が「What did you do?」と聞きます。ポッチャ、部屋での友達との会話、牧場で馬乗りと次々に出てきます。増岡先生は馬にまたがるポーズをして、『ride』は、馬や自転車、バイクのように、またがって乗る時に使って、車の場合は何て言う？と聞くと「drive」と生徒から単語が出てきました。



次に英語の挨拶について。基本は同じセリフを返してやること。「Hello」には「Hello」とか。挨拶は日本ではお辞儀をします。自分の首を捧げますという気持ちで頭を下げます。「アメリカの挨拶は何をする?」「握手」と生徒から出ます。「手に何も持ってもらいませんよ。仲良くなりましょう」という意味です。その他、諸外国の挨拶を電子黒板で見っていきます。ハグや額をつけたり鼻の頭をつけたりします。チベットの舌を出して挨拶するそうです。増岡先生がそのしぐさをしてくれました。次に時計を出してきて、午前中の挨拶「Good morning」昼から夕方5時くらい「Good afternoon」お日様が沈んで暗くなったら「Good evening」、寝る時「Good night」、いつでも使える便利な挨拶「hi」「hello」も覚えましょうと学びます。最後に全員で声に出して覚えていました。最後の5分間で自分の名前を英語で書く課題です。増岡先生が赤字で書いたローマ字の各自の名前をなぞります。その後、何回か書いて練習していました。50分の授業を通して、増岡先生は常に笑顔と大げさな表情、身振り手振り、大きく元気な声で、生徒から英語や反応を引き出していました。生徒は英語の授業が大好きな様子でした。

二週間の運動会練習期間は、前半は比較的天気に恵まれましたが、予定翌日から当日朝まで雨が降り続けました。3日(土)は順延となり、週末をはさんで翌週の火曜日に本番を迎えました。

当日は、朝から曇り空で 25℃の絶好のコンディションでした。運動会は雨宮実行委員長の「入場！」の声で開会式が始まりました。キビキビした動きで、生徒のやる気が伝わってきます。開会式で、私は「今年も言います。達成感なく感動の残らない学校行事なんか、やるだけ無駄です。ぜひ、学級・学年・学校全体で、笑って、泣いて、大声を振り絞って応援して、絆を深め、心と体が震える一日にしましょう」と挨拶しました。今回もコロナ禍で生まれた半日開催の日程で、『スマート運動会』と銘打って行いました。50、100M走から始まり、力の入った長距離走と続きます。後半は学年種目、一年生は『いかだ流し』二年生は『黒犬やまとの宅配便』、



そして全員リレーと続きます。今回の運動会は、半日で行うための工夫として、選手の入退場を同時に行ったり、競技する選手が自分たちで道具を運んだりといった工夫をしています。そのため、予定していた日程に余裕をもって進行することができました。運動会のクライマックスは、三年生の『大ムカデ』と全学年選抜リレーです。今年の大ムカデは、女子⇒男子とつないだ後、男女が連結してトラック二周を走りきりました。

今回も印象に残ったのは、生徒が自分の学級の生徒、学年を超えた温かい応援や声援の声が、競技開始から終了まで切れ目なく続いたことです。お互いに応援し合って、楽しい雰囲気を作って盛り上がるすべを知っていました。また、全体を通して三年生が迫力ある競技、演技で、下級生へのリーダーシップが際立った一日となりました。



先頭はマスクとプロテクターを着けます。

杉並内中学校の特別支援学級6校で野辺山にある『帝産ロッジ』で、二泊三日の宿泊行事をおこないました。G組15名の生徒が参加しました。

一日目は雨模様の中、バスで出発し、昼食は『小作』のほうとうをいただきました。かなりの分量でしたが、みんな鍋の底が見えるまでおいしくたいらげました。午後は清里でネイチャー体験です。雨具を着て森を散策しながら、草や樹木、鳥やおたまじゃくし、リスの生態について体験的に学習しました。活動中は雨は上がり支障なく活動できて幸いでした。その後、まきば公園で羊やウサギと触れ合いました。夜はバイキングディナーでした。コロナの警戒をしつつも、対面で楽しく食事ができました。これまで食が細かった生徒が、もりもり食べている姿にうれしくなりました。食後、講堂で開校式を行いました。代表校長として私も挨拶して、景気づけに『幸せなら手を叩こう』を歌い、皆で手や足を合わせてくれました。



by 紫帆

二日目。午前中は曇りで、体育館でのポッチャ交流大会を行いました。他校の生徒とお互いを称え合い温かい交流ができました。午後から小雨が降り出す中、滝沢牧場では肉と野菜のバーベキューをいただきました。食べ終わる頃に霧雨に弱まりました。さっそく木製のアスレチックでみんなで遊び、乳搾り、乗馬、エサやり体験と楽しむことができました。その後、お約束のソフトクリームを食べました。宿舎での朝晩の食事は、バイキングスタイルでおいしい食事に、生徒も三日間大満足でした。

最終日は、そば打ち体験で作ったそばをその場でいただきました。そばを同じ幅に切るのに苦戦していましたが、そばの味は美味しかったです。最後に小淵沢の道の駅で買い物学習でお土産を購入しました。大自然の中で、大きな事故もなく、6校の生徒と教職員の交流ができた素晴らしい二泊三日でした。



